

### 第3節

## 安心して子どもを生み、育てることができる 社会の形成についての理解を進める

### 1 官民一体子育て支援推進 運動事業

働き方の見直しについての労使の意識改革を促す国民運動を展開するため、2006（平成18）年度から、次の3つの事業からなる「官民一体子育て支援推進運動事業」を実施している。

#### ○官民連携子育て支援推進フォーラム

国、地方公共団体、経済団体、労働団体やマスコミ等の参加によるフォーラムを開催し、企業や地域における働き方の改革に向けての意識改革を進め、子育てしやすい環境づくりを推進している。

#### ○シンポジウムの開催

2007（平成19）年度は、愛知県、熊本県、石川県、広島県、岩手県及び埼玉県の6か所で開催した。政府の少子化対策の説明、有識者の基調講演のほか、地方公共団体や経済界、労働界の関係者によるパネルディスカッションが行われ、官民をあげた運動を実施するための情報交換や共通認識を形成する機会となった。

#### ○啓発パンフレットの作成

官民の連携による国民運動をアピールし、子育て支援の機運を醸成するため、シンポジウムの内容、企業や地域における子育て支援に係る取組を紹介したパンフレットを作成し、経済団体、労働団体等に広く配布している。

### 2 家族・地域のきずなを 再生する国民運動

少子高齢化が急速に進行している中で、安心して子どもを生み育てることのできる環境の整備や、社会全体で働き方の改革を進め、仕事と生活の調和の推進を図るなど、少子化対策をさらに効果的・総合的に推進していくことが求められているが、同時に、生命を次代に伝え育てていくことや、家族の大切さ、家族を支える地域の力が国民に広く認識されることが必要である。2007（平成19）年12月に策定した「子どもと家族を応援する日本」重点戦略においても、同様の趣旨の指摘がなされるとともに、そのためにも、社会全体の意識改革のための国民運動を展開していく必要があるとの指摘がなされている。

政府においては、2007年度から、11月の第3日曜日を「家族の日」、その前後各1週間を「家族の週間」と定めて、この期間を中心として「家族・地域のきずなを再生する国民運動」を実施していくこととした<sup>1</sup>。また、この期間を中心として、地方公共団体、関係団体及び有識者等と連携し、家族や地域のきずなの重要性を呼びかけるための大会（子育てを支える「家族・地域のきずな」フォーラム）の開催や作品コンクール（標語、手紙・メール）、啓発パンフレットの作成等の取組を行っている。初年度（2007年度）は、全国大会を富山県で、地方大会を茨城県、静岡県及び高知県で開催した。

1 初年度（2007年度）は、11月18日（日）を「家族の日」、11月11日（日）から24日（土）を「家族の週間」と定めた。内閣府ホームページのURL：<http://www8.cao.go.jp/shoushi/kizuna/index.html>



子育てを支える「家族・地域のきずな」  
フォーラム全国大会（富山県）

### <子育てを支える「家族・地域のきずな」についての有識者メッセージ>

- 父親のサポートで母親の安心と子どもの発育を  
小林 登（国立小児病院名誉院長）
- 脳機能の発達には、家族や自然との様々な接触の機会が重要  
津本忠治（理化学研究所脳科学総合研究センター ユニットリーダー）
- 人とのふれあい、あたたかい抱きしめが乳児期の信頼関係を築く  
橋本武夫（久留米大学小児科臨床教授）
- 子育て中の家族を社会全体で支えよう  
ーゆとりある「待ちの子育て」が子どもを伸ばすー  
内田伸子（お茶の水女子大学副学長）
- 家で、地域で、大人の「存在」感を見直す試み  
明石要一（千葉大学大学院教育学研究科教授）
- 家族との時間を増やす努力が、コミュニケーションを深める  
坂元 章（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授）
- 脳の発達は、遺伝子と環境の相互作用の結果である  
桃井真里子（自治医科大学小児科学教授）

### <作品コンクール 標語の部門（最優秀賞）>

- 夢ある子 そだてる家族の 支えあい  
秋田県 篠田健三さん 70歳
- 子は宝 守りの要は <sup>かなめ</sup>地域の輪  
新潟県 坂井良子さん 40歳
- 子どもの笑顔 つくる人の手 社会の手  
千葉県 上中直樹さん 28歳

## <作品コンクール 手紙・メールの部門（最優秀賞）>

### ○ひみつのトイレはたのしいトイレ

新潟県 坂井敏法さん 小学1年生

おねえちゃん、やっちゃん。きょうもいっしょに、よなかのひみつのトイレ、いこうね。まず、ぼくがおきて、やっちゃんをおこすね。そして二人で、おねえちゃんのへやへいくよ。そのあと、三人で、トイレへいこうね。

一人でいくの、すっごく、こわいもん。二人でいくのも、ちょっとこわいから。でも三人でいけば、大じょうぶ。こわくないよね。

おとうさんは、しごと中。おかあさんは、ねむり中。

「おとうさんとおかあさんをちょっとでも、たすけようね。三人で力をあわせて、がんばって、トイレにいこうね。」

って、三人でひみつのかいぎで、きめたんだよね。おとうさんとおかあさんが、いままでぼくたちをそだててくれたことへの、ごおんがえしだよ。

もっときょうだいほしいな。力をあわせてみんなでそだてよう。こんどは四人でトイレにいけるよ。たのしいたのしいトイレだね。

### ○今年も元気なおじいちゃん、おばあちゃんへ

兵庫県 佐藤みどりさん 高校2年生

おじいちゃん、おばあちゃん、ありがとう。物心ついた時から、私はおじいちゃん達と一緒に暮らしてて、それが当たり前やと思ってた。でも今は、毎日感謝の連続です。

私が小学校に入る前、めっちゃわがままやった私を見て、おじいちゃんは『情けない。』と泣いてくれたね。その涙が、今も私の心を動かしてる。教科書の中の出来事やった戦争も、『今ここにいるおじいちゃんが経験した』っていう事実だけで、私の意識はめっちゃ変わった。おじいちゃんとおばあちゃんがいてくれるから、両親も安心して仕事に行ける。そして何より、おじいちゃんとおばあちゃんとお過ごす時間の中には、大切なもんがいっぱい詰まってるねん。風呂の残り湯で洗濯をして、その残り湯で花の水遣り、夏は打ち水。いつか私が家族を持ったら、受け継いで、実践したいと思ってるよ。

私は夏休みにカキ氷を作ってあげることしかできひんけど、カキ氷くらいなら、毎年作るから。家を出ても、作りに帰ってくるから。おじいちゃんとおばあちゃんは、毎年元気にここにおってね。

### ○「母から 離れて暮らす長男へ」

青森県 藤田智恵子さん 42歳

初任給で家族全員に買ってくれたプレゼント届きました。ちゃんと一人一人に感謝の手紙

まで添えてあって。ありがとね。お父ちゃんとお母ちゃんは、嬉しくて有り難くて、二人で鼻水垂らして泣きました。

一体いつの間にこんな立派な大人になったんでしょうねえ。

このまちに自然に囲まれ、地域のみなさんの思いやりに包まれ、家族の愛情を受けて、あなたはまっすぐに育ってくれた。有り難いことです。東西南北どの方向にも深々と頭を下げお礼をしたい程、あなたを支え育ててくれた全てのみなさんに、感謝しています。

じいちゃんと、お隣のすみばあと、お向かいのさだぼっちは、茶飲み話にいつも「克哉の嫁っこ見るまでは元気でいないば。いやいや、孫っこ見るまで元気でいないば」と、楽しそうに笑っています。東京で暮らすあなたの頑張りは、みんなに元気をくれてますよ。ありがとう……。

### 3 少子化社会対策に関する 国際連携推進事業

少子化対策に積極的に取り組んでいる各国の政策担当者との意見交換を通じて、経験や知恵を共有し、我が国の少子化対策の立案・実施の実務面に活用するため、2006（平成18）年度から「少子化社会対策に関する国際連携推進事業」を実施している。

2007（平成19）年度においては、イギリス、ドイツ、韓国政府の家族政策担当者、雇用政策担当者等（各国2名）を招聘し、我が国の政策担当者、有識者等との意見交換、一般国民を対象としたシンポジウムの開催及び関連施設の視察等を実施した。

### 4 国民との直接対話

政府では、2007（平成19）年度から、国民の意見等を政策立案に反映させることを目的として、閣僚と国民との対話集会である「大臣と語る希望と安心の国づくり」を実施している。2007年10月には、「少子化対策」をテーマとして、少子化対策担当大臣をはじめ関係閣僚等が出席し、100名を超え

る参加者と直接対話を行った。子育て中の母親や保育所経営者、医療関係者など幅広い参加者から発言あり、活発な質疑応答が行われた。

また、2007年11月から「オープン！子ども・家庭大臣室」と題し、少子化対策担当大臣が子育て支援関係者や実際にサービスを利用している親子と直接語り、意見交換等を行う場を設けている。同年12月には、特定非営利活動法人が運営する地域子育て支援拠点事業の施設を訪問し、職員やボランティア、利用者である親子と活発な意見交換や質疑応答を行った。



第6回「オープン！子ども・家庭大臣室」  
（NPO（特定非営利活動）法人ビーのビーの）  
が運営する地域子育て支援拠点  
「どろっぷ」視察）